

おあしす



タンザニアの風景

上段左：タンザニアの乾燥地帯のあちこちで見られるバオバブの木（アフリカバオバブ, *Adausonia digitata*）。言い伝えによると、悪魔が巨木を引き抜いて逆さまに地面に刺したといわれている。特に葉を落とす乾季には、ほかの樹木と一目瞭然で判別でき、まるで人格（樹格？）を宿しているかのよう。果実は食用。

上段右：ユーフォルビア（*Euphorbia* sp.）もよく見かける。山岳地帯では 20 m を超える巨木も見られた。

下段左：サイザルアサ（*Agave sisalana*）。タンザニアの特産品として知られる繊維作物。かつては輸出されていた。写真のように中心から幹のように伸びているのは花。この花が咲くと植え替えられるのだという。

下段右：サイザルアサの繊維を干している様子。

(写真提供：鈴木伸治)

日本沙漠学会・乾燥地農学分科会講演会のご案内

乾燥地農学分科会では、下記の通り講演会を開催いたします。奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

日 時：2015年11月11日（水）13：00～17：30（受付12：30～）

会 場：東京大学農学部（弥生キャンパス）フードサイエンス棟（旧4号館）中島重一郎記念ホール

（URL：<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/campus/overview.html>）

開催趣旨：

2015年は国際土壌年である。土壌は農業開発、生態系の基本的機能および食糧安全保障の基盤であることから、地球上の生命を維持する要である。限りある土壌資源を見つめ直し、その持続性を増進することが求められている。一方、沙漠に生育する植物は、高温や少雨、塩類集積などのストレスに適応しながら生きている。このようなストレス適応の仕組みを知ることで乾燥地生態系の成り立ちの解明やストレスに強い植物の作出が期待できる。本講演会では沙漠に存在する貴重な土と植物にスポットを当てて、これらの資源の持続的な管理・利用について議論する場にしたいと考えている。

【沙漠の貴重な資源：土と植物】

講演会次第

12：30～	受付
13：00～13：05	開会の辞：吉川 賢（日本沙漠学会副会長）
13：05～13：50	講師：大倉 利明氏（農業環境技術研究所インベントリセンター 主任研究員）
13：50～14：35	講師：原 正和氏（静岡大学グリーン科学技術研究所 教授）
14：35～14：45	ブレイクタイム
14：45～15：30	講師：志水 勝好氏（鹿児島大学農学部 教授）
15：30～16：15	講師：藤巻 晴行氏（鳥取大学乾燥地研究センター 教授）
16：25～17：25	全体討論 モデレーター：石川祐一（秋田県立大学、乾燥地農学分科会会長） パネラー：大倉利明氏、原正和氏、志水勝好氏、藤巻晴行氏
17：25～17：30	閉会の辞：石川祐一（乾燥地農学分科会会長）

参加費：無料（資料代1,000円）

電子メールまたはFAXで、①氏名、②TEL、③FAX、④E-mail、⑤所属をご記入の上、事務局宛にお送りください。なお、当日の参加も可能です。

【申込先】事務局：(株)アースアンドヒューマンコーポレーション（担当：深井）

FAX：018-872-1677 E-mail：owner-cadal@iijnet.or.jp

【URL】 <http://www.jaals.net/>

日本沙漠学会・沙漠誌分科会研究会のご案内

沙漠誌分科会では、国際土壌年 2015 関連の企画といたしまして、11 月 15 日（日）に研究会「乾燥地土壌と人々の生業に関わる研究会」を開催いたします。皆様是非ご参加ください。

日 時：2015 年 11 月 15 日（日） 13:30～17:40

場 所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス 秋葉原ダイビル 12 階・D 会議

プログラム

- | | |
|-------------|-------------------------------------------------------|
| 13:30～13:35 | はじめに |
| 13:35～13:40 | 趣旨説明 杉原 創（首都大学東京） |
| 13:40～14:10 | 基調講演 小崎 隆（首都大学東京）
土と人との永いつきあい～国際土壌年によせて |
| 14:10～14:25 | 休憩 |
| 14:25～15:00 | 伊ヶ崎健大（JIRCAS）
サヘルでの暮らしにとけこむ砂漠化対処 |
| 15:00～15:35 | 清水貴夫（総合地球環境学研究所）
西アフリカ・半乾燥地の水食をめぐるローカル・ナレッジと人びとの営み |
| 15:35～15:45 | 休憩 |
| 15:45～16:20 | 高田裕介（農業環境技術研究所）
土壌有機物の減耗：カザフスタン北部穀作地帯の農地管理は適正だろうか？ |
| 16:20～16:55 | 川田清和（筑波大学）
モンゴル草原のヒツジは何をどれくらい食べているのか？ |
| 16:55～17:05 | 休憩 |
| 17:05～17:35 | 総合討論 |
| 17:35～17:40 | おわりに |
| 18:00～20:00 | 懇親会 |

* 研究会後の懇親会は事前申込制とさせていただきます。ご参加いただける方は、お手数ですが 2015 年 11 月 6 日までに、本研究会世話人の首都大・杉原（sohs@tmu.ac.jp）までご連絡ください。

平成 27 年度 東北復興支援活動報告会のご案内
日本沙漠学会 乾燥地農学分科会

テーマ：津波塩害農地の除塩および土壌修復技術に関する研究

巨理町の津波堆積土を利用した野菜栽培事例の紹介～土壌改良による収量の違いについて

開催日時：平成 27 年 11 月 16 日（月曜日） 13：00～14：05（説明会）

14：30～15：30（エクスカーション）

開催会場：わたり温泉島の海 2 階会議室（宮城県巨理郡巨理町荒浜字築港通り 41-2 Tel 0223-35-2744）

主催：国立大学法人東北大学大学院農学研究科，後援：日本沙漠学会乾燥地農学分科会

協力：(株)大林組，(株)タケエイ，(株)環境科学コーポレーション

概要：東北大学大学院農学研究科は、震災復興を進めるため、学術の知見を実務に活かす取組を進めている。その一環として、大林組と平成 24 年～平成 27 年にかけて共同研究「津波塩害農地の除塩および土壌修復技術に関する研究」を行っている。平成 26 年に巨理町で始めた試験圃場では、巨理町農林水産課、および農家の森一郎氏の協力を頂き、津波堆積土を利用した野菜栽培による土壌改良効果を調査している。本報告会は、その成果を巨理町の方々に知って頂き、今後の農業活動に活かして頂くことを期待して、開催する。

参加費：無料

その他：本報告会は、公益財団法人経団連自然保護協議会・公益信託経団連自然保護基金の平成 27 年度助成を受けて、実施されるものである。

プログラム

総合司会：石川 祐一（分科会会長）

■説明会（13:00～14:00）

13:00 開会の辞 石川祐一（分科会会長，秋田県立大学准教授）

13:05 講演

津波被害を受けた農地土壌の概況とその対策について（菅野均志，東北大学助教）

13:35 講演

巨理町の津波堆積土の土壌改良による利用例（杉本英夫，大林組技術研究所）

14:05 閉会の辞 南條正巳（前日本土壌肥料学会 会長，東北大学教授）

■エクスカーション（14:30～15:30）

大林組・東北大学大学院農学研究科の共同研究の試験圃場（巨理町浜吉田近く）の見学

※エクスカーションの参加は、任意です。シンポジウム会場から各自の車で移動します。

※試験圃場の案内地図は、シンポジウムの資料と別に配布します。

2015 年度学会賞受賞候補者推薦のお願い

日本沙漠学会正会員 各位

日本沙漠学会会長 小島 紀徳
学会賞審査委員会委員長 白石 雅美

日本沙漠学会細則第 34 条にもとづき、日本沙漠学会賞（学会賞，学術論文賞，進歩賞，奨励賞の 4 賞）を公募いたします。つきましては、学会賞受賞候補者を下記の要領でご推薦下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 学会賞の種類

- (1) 日本沙漠学会学会賞 : 本学会において学術かつ事業活動に顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞 : 「沙漠研究」に掲載された論文により乾燥・半乾燥地に関する学術上の顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (3) 日本沙漠学会進歩賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する技術的，実践的な業績を挙げた会員または会員を含む団体に授与する。
- (4) 日本沙漠学会奨励賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与する。この場合の受賞者は，原則として当該年度において 35 歳以下の会員とする。なお，35 歳を超えた会員を奨励賞に推薦する場合には，その理由書を添付する。

2. 推薦期限 2016 年 2 月 26 日（金） 当日消印有効

3. 推薦方法 以下の書類を期限までに学会賞審査委員会（幹事）宛に郵送して下さい。なお，推薦には「自薦」は含まれません。

- (1) 日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞を推薦する場合

様式 1 の推薦書	1 部
推薦に関する業績資料	1 組
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞を推薦する場合

様式 2 の推薦書	1 部
推薦に関する論文，研究業績資料	1 組

4. 宛先（照会先）

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1 東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科
広域環境情報学研究室 気付 日本沙漠学会 学会賞審査委員会 幹事 豊田裕道
TEL : 03-5477-2494 FAX : 03-5477-2620 E-mail : h1toyoda@nodai.ac.jp

5. その他

応募された書類は返却しませんので，必要な場合は写しを保管下さい。

なお，過去の受賞者については日本沙漠学会ホームページ（<http://www.jaals.net/>）をご参照下さい。

様式 1

(日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞用)

平成 年 月 日

日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞推薦書

1. 推薦者 所属：
氏名： 印
住所・電話：
2. 被推薦者 所属：
氏名： 生年 年 月 日
住所・電話：
入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する資料リストなど

様式 2

(日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞用)

平成 年 月 日

日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞推薦書

1. 推薦者 所属：
氏名： 印
住所・電話：
2. 被推薦者 所属：
氏名： 生年 年 月 日
住所・電話：
入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する論文，研究業績資料リストなど
著者名（共著の場合は全員），題目，掲載誌名，巻号，頁，発行年を記載すること。

記入上の注意

- 1) 書 式 A4 縦置横書き，明朝体 12 ポイント，上下左右マージン 2.0cm 以上，1 行文字数 35 ～ 40 字，1 ページ行数 35 ～ 40 行
- 2) 被推薦者 被推薦者が団体の場合は団体名およびその代表者を記入して下さい。
- 3) 推薦理由 箇条書きの場合は約 100 字以内で説明して下さい。
箇条書きでない場合は全体を 400 字程度で記載して下さい。
- 4) 様式 1 「日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞」の場合 5. 資料リスト内容のコピーなどを添付して下さい。
- 5) 様式 2 「日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞」の場合 5. 対象論文の別刷り（コピー可），研究業績リスト内容のコピーなどを添付して下さい。

学 会 記 事

日本沙漠学会第 121 回理事会 議事録

日 時：2015 年 7 月 17 日（金）14:30～17:00

場 所：東京農業大学世田谷キャンパス 生産環境工学科バイオロボティクス研究室木工室

出 席：小島紀徳（会長）、渡邊文雄（副会長）、川端良子、酒井裕司、白石雅美、田島 淳、豊田裕道、森尾貴広、矢沢勇樹（以上、理事）、高橋新平、中村 徹（以上、監事）、島田沢彦（総務委員）、今村 薫、藤巻晴行、的場泰信（以上、オブザーバー）

委任状：吉川 賢（副会長）、鈴木伸治、田中 徹、吉崎真司（以上、理事）

I. 審議事項

1. おあしす原稿確認
おあしす原稿を基に、以下の確認がなされた。
 - ・第 120 回理事会議事録確認
 - ・2015 学術大会報告
2. 2015 年秋季シンポジウムについて
 - ・事前に参加人数の確認を行うこと、講演者には原稿（本誌掲載用）の執筆依頼を行う、会員外の講演者には謝金を支払うこと、などを確認した。
3. 2016 年学術大会について
資料に基づいて、以下の説明が開催地、鳥取大学の藤巻氏よりなされた。
 - ・開催日程は、2016 年 5 月 28・29 日
 - ・大会実行委員会 委員長、北村義信氏、事務局、齋藤忠臣氏
 - ・公開シンポジウム、エクスカージョンを開催する。
 - ・砂丘学会から合同開催の申し入れがあったことが報告され検討を行った。結果を砂丘学会の理事会（7 月末開催予定）に報告する。
4. 2016 年秋季シンポジウムについて
開催予定地である名古屋学院大の今村氏より以下の説明がなされた。
 - ・科研 3 年目（カザフスタンでラクダを中心に行った研究）の研究発表の場としたい。

II. 報告事項

1. 編集委員会
 - ・8 月から J-STAGE に公開予定
 - ・ICAL2 論文は 25(3)に掲載予定
 - ・25 周年記念シンポジウムの特集記事は 25(4)に掲載予定
2. 学会業務等の外部委託に関する WG 報告
委員：渡邊（委員長）、鈴木、田島、高橋、矢沢、田中、森尾、酒井、白石、島田
 - ・J-STAGE での公開に伴い、印刷経費が削減される可能性も考えられるので、事務委託、会費値下げ、投稿料値下げ等の可能性について総合的に検討を行う。

III. その他

1. J-Stage 公開に伴う冊子体の扱いについて
 - ・引き続き検討を行う。
2. DT と ICAL の開催について
 - ・どちらかを 3 年に 1 回開催する、くらいのペースに落ち着きたいとの意見があった。
3. 今後の大会、シンポジウム、分科会の開催地について
 - ・2015 年秋シンポジウム：NTC インターナショナル（会場：NTC コンサルタンツ）
 - ・2016 年学術大会：鳥取大学
 - ・2016 年秋シンポジウム：名古屋学院大
 - ・2017 年学術大会：千葉工大
 - ・2017 年秋シンポジウム：筑波大学
 - なお、2018 年の学術大会の開催候補地として、石巻専修大学あるいは酪農学園大学が挙げられた。
4. その他
 - ・乾燥地農学分科会 乾燥地の土と植物をテーマにして東大で 11 月 4 日に開催予定。また、経団連によるシンポジウムを昨年に引き続き宮城県亘理町で 11 月 16 日に開催予定。
 - ・沙漠誌分科会：会長が、牛木氏から縄田氏に、事務局が渡邊氏に交代した。
 - ・風送ダスト研究会：会長が、三上氏から黒崎氏に交代した。
 - ・次回理事会は、10 月 16 日（金）15:00～、東京農大で開催することとした。

~~~~~ 賛助会員・団体会員名簿 ~~~~~

|                        |          |                 |                    |
|------------------------|----------|-----------------|--------------------|
| (株)アースアンドヒューマンコーポレーション | 194-0041 | 町田市玉川学園 8-3-23  | Tel : 042-710-7661 |
| 株式会社ウイジン               | 158-0097 | 世田谷区用賀 2-12-14  | Tel : 03-3700-0531 |
| NTC インターナショナル株式会社      | 164-8721 | 東京都中野区本町 1-32-2 | Tel : 03-5354-3621 |
| 株式会社大林組技術研究所           | 204-8558 | 清瀬市下清戸 4-640    | Tel : 0424-95-1060 |

~~~~~